

学校便り 1月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和8年1月16日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP



学校ブログ NEW



里周辺海水温
22℃(1/10)



2026午年 躍進の年でありますように！

令和8年3学期始業式、子供たちと学校

校長 永野 俊也

1月8日始業式の朝、正門で子供たちを待っていると笑顔で子供たちが登校してきました。見たところ風邪をひいている様子は感じられず、みんな元気そうです。「よかった」そんな素直な気持ちを、始業式では子供たちに伝えることから始めました。そして、3学期はまとめの学期、1,2学期で学んだことを含めて、しっかり使いこなせるようになろう！そして4月には自信をもって進学・進級しましょう。そう話をしました。これは、先生方へも3学期のスタートに当たりお願いしました。私たちは子供たちに対し、「何を教えたかではなく、(子供たちは)何ができるようになったか」を迫り取り組みましょう。充実した3学期にするため、みんなで取り組むことを再確認しました。それからもう一つ、子供たちには広い視野を持つことの大切さを伝えました。1月から中3の先輩たちの中には島立ちに向けて高校の入試が始まる人もいますし、3月にはみんなが進路を決定し、4月に島立ちを迎えます。新年のスタートに当たり自分自身はどのような道を歩みたいのか、しっかり考えていってほしいと伝えました。

また、毎年1月3日に行われている里の「20歳の集い」の様子も、子供たちや先生方へも伝えました。新しく20歳を迎え里で学んだ卒業生が、大人として親や地域の方々、先生方へ感謝の言葉を述べ、20歳の今の姿を見つめ未来へ踏み出す決意を述べます。5年連続して参加していますが、島立ちした子供たちは、自分の生まれ育った甕島、そこで受けた愛情を忘れることなく、それぞれの道でみんな頑張っている。その絆の深さをとても感じます。里の20歳の集いは、幼稚園、小・中学校の担任の先生全てに声がかかる他、小・中学時代転入生として一時期里で過ごした同級生も招かれ、懐かしい再会の場にもなっています。こういう20歳の集いを、私は今まで経験したことがありません。小学生のみんなは20歳の頃、どのような姿に育っているのでしょうか。その姿を楽しみにしつつ、まずは令和7年度の締めくくりをしっかり行っていきたいと思います。

ところで今年は午年。学校の階段を上がっていると、2階の廊下に子供たち手づくりの絵馬が飾ってありましたので、いくつか紹介したいと思います。

- ・ いつも笑顔でいられますように 笑福来門
- ・ 学業成就
- ・ 家族みんなが幸せでいられますように
- ・ こしきじまがたのしくらせますように みんながたのしくすごせますように
- ・ 元気で幸せにすごせますようように
- ・ べんきょうをいっばいする うんどうをする
- ・ あたまがよくなれますように みんながしあわせになれますように
- ・ みんながたのしくらせますように

etc, ...



どうぞ、ご来校の際はご覧になってください。よき年になりますように！

鹿児島ユナイテッドFCからサッカーボールをいただきました

鹿児島県を本拠地とするプロサッカーチーム『鹿児島ユナイテッドFC』(J3所属)から、サッカーボール(公式球)をいただきました。同チームでは、試合でゴールを決める度に県内の小学校1校を抽選で選出しサッカーボールをプレゼントするという『ワンゴールプロジェクト』を実施しており、第38節の試合で決まったゴールについて、抽選で里小が選ばれたとのことでした。全部で5球あり、子供たちが昼休みに利用して遊んでいます。



2月行事

- 3日(火) 生活リズム指導週間(~9日)
全校集会
 - 4日(水) 委員会活動
 - 11日(水) 建国記念の日
 - 13日(金) 磯餅焼き
かのこゆり号来校
 - 14日(土) 土曜授業
 - 18日(水) クラブ活動(3年生見学)
 - 19日(木) 鹿児島大学学生訪問
~離島教育の現場視察~
 - 23日(月) 天皇誕生日
 - 26日(木) 学級PTA
令和8年度役員話し合い
学校保健委員会
- ※上記の予定は、今後変更の可能性もあります。



県児童作文コンクール入賞

県の児童作文コンクールで、4年生の中原大洋さんの作文が入賞しました。祖父母の畜産の現場で、新しい牛の命の誕生について感じたことを書き綴った作文でした。



赤い羽根募金

総務委員会のみなさんが、朝、児童玄関前で呼びかけて集めた赤い羽根募金のお金を、社会福祉協議会の方に、お渡ししました。

総額は **6,792円** でした。御協力ありがとうございました。

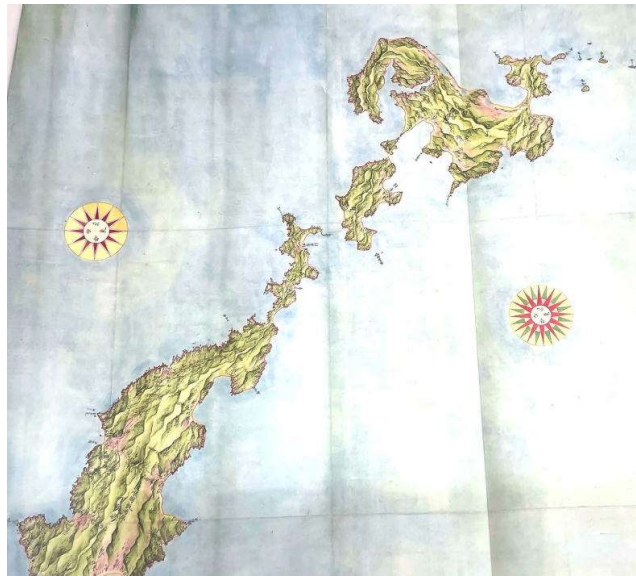


11月掲載内容について補足

11月号の記事で、市の陸上記録会において「齊藤歓南さん」と「山下小稲さん」が2位入賞したことを掲載しましたが、二人が入賞した競技について記載していませんでした。以下の通り補足いたします。
5年女子走り幅跳び第2位山下小稲さん・6年女子走り幅跳び第2位齊藤歓南さん

伊能図にみる甌島の世界！

甌島の姿、日本の姿を見つめる



里小創立150周年記念誌に掲載できなかった里にまつわるいろいろな話を、付録という形で裏面へ掲載してきました。親子で甌島の魅力を見つめ直すきっかけになればとの思いで綴ってきましたが、今月号で一区切りにしたいと思います。

今回は、予定より1年長く甌島に残ることができたので、ずっと疑問だった、

「伊能忠敬は、山犬がうようよする中、断崖絶壁が続く甌島をどのように測量して地図をつくったの？」

という疑問に迫ります。簡単に説明すると次のようになります。

導線法 + 交会法 + 天文測量 これを繰り返し測量して精度を上げる手法

簡単に言うと、2地点の距離を紐や鎖で測り、その2地点を見渡せる別の地点からその地点までの角度を左右上下測り作図する。これを繰り返し、夜は全体の位置(緯度や経度)を、天体観測により計測する。となります。

忠敬の測量は、全10次。そのうち第1次は、蝦夷地(北海道)調査を幕府から命じられながらも自費で測量し、その時は歩測で距離を測っていました。そしてこの1次測量で、「地球の大きさを知りたい」という忠敬の夢は、子午線1度は、28.2里(約110.7km)と、現代測量との誤差1000分の1の精度で割り出します。そしてその後は、「この国の正確な姿が知りたい」と夢が広がり実行していきます。

55歳で隠居してから、天文暦学を学び 56歳から72歳までの間に、約4万キロ、ほぼ地球1周にあたる距離を歩き、地図を完成させた忠敬は、よく「中高年の星」とも評されます。私なども「元気を出さねば！」とその姿はとても励みになります。

甌島の測量は1810年の8月1日~19日(今から216年前)、串木野から船で渡り、測量を19日間で終えています。

第7次で九州1回目の測量となるこの頃には、幕府の正式な事業となっており、幕府は旅先の各藩へも協力を命じていますから、かなりの大所帯だったようです。

当初、薩摩藩は抜け荷等々諸事情で幕府の測量隊を煙たがるのでは?と思われていましたが、当時の藩主は、島津重豪(しげひで)公(11代将軍家齊の正室に娘を嫁がせ、蘭癖大名・学者大名とも呼ばれ開明派で知られますが、藩の財政は傾きます…)でしたから、協力を惜しまなかったようです。

甌島での測量隊本陣は、現在村西にある西願寺(当時の西昌寺)に置かれたようです。そして甌島測量の第一歩として今も姿を留めているのが、一の段にある測量原点です。

令和3年4月、甌島に初めて赴任した時、文献で読んで「どこかにあるはず…」と一の段を探してみましたが、見つけられませんでした。(当時は雑木に覆われ、発見できませんでした…)ある日一の段へ上ってみると「あった!」と雑木がきれいに払われて、姿を現わしていました。

一の段の展望台へ上る階段のすぐ右です。その傍らに立つと、200年前ここから甌島の姿が記録され、やがては日本全体の姿が地図となり現れていくんだという、歴史の口マンを感じることができるのではないのでしょうか。

甌島は、まだまだ多くの魅力に包まれています。その魅力がこれから先も多くの方を魅了し、語り継がれていくことを願ってやみません。



↑【測量原点】



【伊能忠敬 第7次測量隊の経路】

[完]